仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.191

2019.9.15

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

# ヤマトオサガニの生息場所

## ■泥地に生息するヤマトオサガニ

蒲生干潟には砂地が広がり，柔らかい泥地に生息するヤマトオサガニはなかなか見られない。今年は6月に1匹，抱卵した個体を観察したが（レポートNo.188参照），今回の調査では複数匹観察することができた(Fig.1）。ヤマトオサガニはアシハラガニなどと比べて警戒心が強く，長時間動かずに湿地で待つことで観察できる。場所は日和山下の人工的に溝を掘った結果できた湿地である（Fig.2　レポートNo.188参照）。ここは人工的に生じた湿地であるため，今後安定して存在していくかは確実ではない。

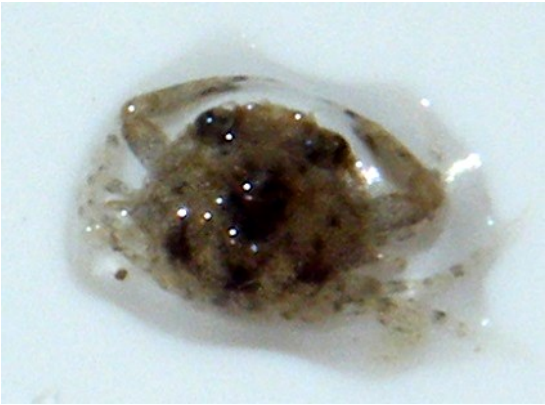
（Fig.1　ヤマトオサガニ）

（Fig.2　ヤマトオサガニが生息する湿地）

## ■ガザミの稚ガニの性別について

先月に続き，今回の調査でも七北田川河口でガザミの稚ガニを観察した。先月と比べ数は少なく，甲幅5mm，10mm，15mm，19mmの4匹である。Fig.3は甲幅5mmの個体で，これまで観察したもので最小である。この大きさでも遊泳脚が確認できる。なお，前回のレポートで「稚ガニはオスばかりのように思われた」と書いたが（Fig.5　レポートNo.190参照），宮城県水産技術総合センターの矢倉浅黄様より「性的に成熟し雌の腹部が三角→丸くなるのはある程度成長した後で，小型のうちは雌雄共にフンドシが細く雄のような形状の可能性がある」とご教授いただいた。心より感謝申し上げる。

Fig.5のように稚ガニのフンドシは全て雄のように見えるが，この大きさではフンドシで雌雄を見分けることはできない可能性がある。



（Fig.3　ガザミ　甲幅5mm）

（Fig.4　遊泳脚）

（Fig.5 稚ガニの腹部 8/18撮影）

（佐藤　賢治）